

[事業者②]

『多角的な森林総合利用で拓げる、新時代の林業経営』
～森のキャンプ・セグウェイ・MTB から、野外フェス・企業 CSV・幼稚園／学校等の受入～
竹川 将樹 ((株) ふもとっばら 代表取締役)



(一部写真無し)

私は、静岡県富士宮市朝霧高原から来た竹川と申します。よろしくお願ひします。

まず、この画面は日の出が富士山の左側、東から出ているものですが、ふもとっばらは、富士山の西麓に位置しますので、当然のこと日の出は必ず富士山の方角に見られます。これはたぶん秋口ころの写真であると思いますが、秋からの日の出は左から見られて、10月10日頃になると富士山の頂上からの日の出が見られます。その後になると、富士山の右手から日の出を見ることとなります。このように、1年間では富士山を境に右左に移動しながら朝日が見られるという光景に恵まれながら、林業経営とキャンプ場経営を行っています。

大学を卒業して38年ほどに経ちましたが、当初は父と2人で自伐林家として林業に従事して25年ほど経ちました。私は、かねてからキャンプ場経営をやりたいと思っていました。当地区では白糸財産区という公有林がキャンプ場を運営していましたが、ここを目標にキャンプ場をやりたいという構想を温めていました。2004年ごろ、学校から農場が戻って来るということで、2年ほどキャンプ場と林業を併せた経営を学びながら準備をしていて、2006年になると、いよいよこういう朝霧高原の麓の位置でキャンプ場をはじめました。



この『ふもとっばら』という名称については、私の住んでいるところが『ふもと』であるということ、それから『はらっぱ』ということをくっつけてふもとっばらと名称をつけました。当初は、ふとっばら、とかいうふうの間違って呼ばれることが非常に多かったのですが、最近では若干分かっていただいて、ふもとっばらとしっかり言っていただくようになってきました。ここの標高は 830mで、北西には標高 1946mの毛無山がそびえていて、その標高差は 1100mほどあります。

毛無山

ふもとっばらと背後にそびえる毛無山(1946m)の標高差は約1100m。
稜線沿いで山梨県と静岡県の県境となっている。全国200名山のひとつ。
ニホンジカやツキノワグマ、イノシシ、カモシカなどの野生動物(哺乳類33種が確認)が生息し、
山の中腹には希少なジゾウカンバ、ブナの巨木が点在するなど、動植物の宝庫となっています。
年間に千数百人の登山者が訪れ、週末は登山客で賑わうことも。山頂までは3時間程度。



こんなに標高差があるということで、色々な植物や生物が生息していて、山の中に入れば当然のことながら川もあれば滝もあります。このような場所を、是非色々な人に味わってほしいということも含めて、2006年12月に法人として設立し、従業員とともにキャンプ場をはじめたところ です。



2010年の3月には、森林認証（SGEC・エスジェック）を取得し、2011年3月には、静岡県の林業の認定事業者としての資格を取得しました。現在管理している森林全体の面積は、719.5ヘクタールで、そのうち自社林は500ヘクタールとなっています。



いま林業の機械化の促進ということで、最初に見ていただいた画面とは変わっていて、林業機

械も大型化し、林業に従事する作業員の人数も8人に増え、また、キャンプ場の従業員も4人となり、全体の従業員数12人で運営をしています。そのうちの林業部門では、伐採から木寄せ、搬出そして出荷までの一連の作業を行っています。この作業は、自社林はもちろん、よその山林についても同様の作業をさせてもらっています。

林業体験

定員120名(最低催行人数20名)



森を守る仕事を体験してみよう！
大切な森林を守っていく重要性を知ってもらうための、本格派ぎこり体験です。
雄大な富士山を望みながら、森の中の動物との出会いや冷たい湧き水、なお残る金山の歴史の面影。
森林の機能や林業の必要性を知るのと同時に、ノコギリなど道具の使い方についても学ぶことができます。
指導はもちろん、経験豊富な地元林業家が行います。すばらしき林業の世界にいざ！

林業の現場では、伐採・搬出などのみならず、小学生をはじめとする子どもたちに対する森林教室を実施しており、林業体験などもしてもらっています。もう一つはプロ向けに、立木の伐倒技術研修とか、緑の雇用の研修の場所として森林を提供しています。



こういった研修を行うに当たって、座学を行う場所と実習現場が非常に近いということから、座学で学んだことがすぐに実習に活かすことができるということで、こういった研修を行う場所としては非常に重宝していただいています。



ここからはキャンプ場についてのお話になります。キャンプ場利用状況については、昨年度の実績で68000サイトのご利用をいただきました。これをご利用いただいた人数に換算すると、20万人までではないとは思いますが、たぶん15万人～20万人の方々にご来場いただいたと思っています。その中で、なぜこのような森に、山の中に来ていただけるのかという理由については、アメリカの医学用語の自然欠乏症候群という言葉があるように、自然を求めて来ていただくということだろうと思います。

こちらは、この寒いのになぜこんなにキャンプに来るのかということで、NHKの『ドキュメント72時間』という番組で撮影していただき、2月1日にオンエアされました。これは、自然環境の中でキャンプをすることによって生きている実感を得ることができる、あるいはストレス社会において自然の中の体験が欠乏している、それから、寒い夜を乗り越えて富士山から出る朝日は格別などの理由があるようです。自然の中でキャンプしていると、お日様が出てくれば、体験としてお日様の出た瞬間から空気が暖かくなってくるということを実感できたり、あるいは夏の時期であると、テントの中で鳥の声を聞きながら目覚める幸せ感が感じられたりする、といったことを求めてお客さんたちは来てくれるのだと私たちは思っています。



これは、まさに日の出の瞬間です。ときには雨の日もありますが、このように富士山から日の出を間近に見ることができると、だいたいリピーターになってくれるような方が多いようです。

こちらは林間学校の受け入れをしているときの画面で、夜になって見たこともないような大きなキャンプファイヤーをつくってあげると、子どもたちは大喜びして非常に高揚して歌ったり、踊ったりして楽しんでいます。こちらはアウトドアフェスティバルなどの会場としてご利用いただいています。ここでは色々なアウトドアグッズの展示・販売とか、あるいは音楽とか、出会いといった楽しみがあって、これらは宣伝と集客につながってきています。



この写真は、2015年8月22日、長瀬剛さんの『オールナイト・ライブ 2015 in 富士山麓』というコンサートを、当初は10万人ライブということで計画したときのものです。結果的に10万人は若干欠けましたが、ライブは決行しました。その中で見えてきたものとしては、10万人集めるには、やはり圧倒的に交通インフラが欠けているとか、こういった大々的なイベントに対する地域のアレルギーがあるなど、色々なことが見えてきました。この大イベントについては、2年ほど前準備をしてきたところでしたが、皆さんからは、トータルしてやって良かったという評価はいただきました。一方でマイナス面も大きいものもありましたが、このコンサートを機に集客力がたいへん上がるという結果につながりました。



SEGWAY

草原や森林へのアクセスを気軽に、楽しく！を実現してくれる、新感覚移動術「SEGWAY」。
ふもとっばらでは、SEGWAYで行くエコツアーをやっています。
SEGWAYで大草原や森林を縦横無尽に走ってみませんか？なんとも表現しがたい爽快感です。

定員 2～4名 ＊インストラクターが付きます
料金 1時間ツアー 4500円／1人
（練習30分、草原や森林のツアー30分の計1時間）
2時間ツアー 8800円／1人
（練習30分、草原や森林のツアー90分の計2時間）

話しは森に戻ります。原っぱだけではなく森を活用していくために、セグウェイを導入しました。セグウェイに乗って木材を搬出するためにつくった作業道を走りながら、スタッフが、森の役割や大切さ、森林資源のことなどの説明を行っています。



この画面は、ミス日本みどりの女神が、セグウェイ大会に来たときに乗って、森の中を走ってもらったときのものです。



こちらは中学生のマウンテンバイクの体験です。来てくれるのは関西の中学生が多くて、1泊目は東京ディズニーランドあるいは東京に泊まって、2泊目が河口湖あるいはふもとっぱらに来て、こういった体験をして、また戻っていくという修学旅行のプログラムに組み込んでいただいています。自転車というのは、誰でも乗れるのですが、マウンテンバイクに関しては、森の中を体験する道具としては非常にいいツールだと思っています、5月～6月の時期についてこのようなことを中心にやっています。これも同じようなもので、大勢、1クラスまとめて40人ぐらいの生徒さんたちが、これからマウンテンバイクで森の中を走って行くという時の画面です。乗り方にも当然色々な乗り方がありますので教えます。

最近では、毛無山の安全祈願祭ということで、花火大会なども行っています。花火の資金については、私どもの会社で出しているものですから大きな花火は上げられませんが、20分～30分程度を、お客さんの楽しみとして、また、村おこしの起爆剤として行っています。

これは森の中を使った映画祭というもので、字のとおり森の中で映画を見てみようというものです。放映権などが非常に高くつく場合もありますが、例えば、ジュラシックパークなどを映画館の中で観るよりも、森の中で観ることで、かなり違った体験ができるということですので、これからも森の映画祭を推し進めていきたいと思っています。

これは、私のかねてからの念願であったニューヨークに行ったときの写真です。かつて、まだ私が若いころ、稲本正さんが、人間は99.9%サルなので、サルの行動を見ていてもだいたい分かるということをおっしゃったことがあります。ニューヨークのような大都会の中でもセントラルパークのような森というのは非常に大事で、人間にとって森というのは欠くことのできないものであ

るということで、森に来てもらうという方法と、私たちが都会に森をつくるというように色々なパターンがありますが、いずれにしても、森というものは、私たちが生きていくために欠くことのできないものであるということを実験したものであるようです。

これは、第50回農林水産大臣賞表彰式です。私は天皇杯をいただきました。天皇杯をいただくということは、人生の中でたいへん名誉なこと、たいへんありがたく思っています。このときは、木材生産と森林総合利用のサービスということの中で、林業経営と森林空間利用を併せて経営しているということの評価をいただいて受賞となりました。

これは福井県の音楽イベントのオブジェをつくることに参画している画面で、ただここに来てもらうだけではなく、積極的に出て行って、木を使ったオブジェづくりをしたり、子どもたちの遊ぶ場所をつくって提供したりして、自ら参画するというようなことをやっています。これは、外へ出て行って、子どもたちに対して木の良さをアピールするということで、こういった積み木を保育園の子どもたちに事業として提供するというようなことも行っています。これは外に向けて自ら出て行って普及啓発をして、木の良さをより分かってもらおうという取組です。



こちらは、企業との協働による森づくりということで、富士宮市にある上場企業さんと一緒になって麓に木を植えるといった森づくりを行っていて、すでに10年近くになりました。こうなりますと、企業の中から有志が出て、森づくりのリーダーになってもらえるような方が出てきました。実際に定年退職した後に森づくりの技術を学んで、企業の森のリーダーになるような人も出てきています。



この集合写真は、大勢の人が来ての森づくり、主に広葉樹の植林をしてもらった時のものです。広葉樹を植えて、その後はご褒美としてみんなでバーベキューをするというようなことで、200～300人ぐらいの方にこういった森づくりに参加してもらっています。

もう一つは、民間会社の社有林の伐採、民間会社の森林管理についての提案なども行っています。これは、金属加工メーカーさんの工場の周りの社有林で、ここでは、森林整備とともに、社内会議とか社員のご家族がリフレッシュする場所としての歩道づくりや、支障木を活用してのウッドデッキをつくるなどの森林整備を展開するというようなこともしています。



ここからは、木材の利用についてのお話で、この画面は、住宅メーカーさんと提携して行っている木魂祭と呼んでいるものです。これは、家族で来ていただき、自分が建てる家の大黒柱になる木、ヒノキを選んでもらったところで、これから伐採するということです。これは、うちの従業員が、ご家族の皆さんのまえで、大黒柱になるヒノキを伐採するところです。伐採されたこの木は、製材して3ヶ月あるいは4ヶ月後には選ばれた方の家の大黒柱になっていきます。

この画面は、ふもとっぱらのエリアの中に、木造の在来工法でつくったコテージで、この木造の家に実際に住むという体験をしてもらう施設で、コテージ柏と名付けています。これはまだ1棟目で、これを22棟作っていくということを計画していますが、資金面で余裕がないとできませんので、これからのことになります。この建物の中には、薪ボイラーで湧かす五右衛門風呂を完備するなど、木と楽しむ宿泊施設ということで取組を進めています。これは、農山漁村振興交付金の中の農泊、われわれは林泊ということで、施設を改良してキャンプ場使用者の方たちに泊まってもらい、近隣の集落で農業体験をしてもらう中で、実際に収穫作業をしたり、収穫したものを食べてもらったりといった場合、私どもで宿泊を担当しているというものです。

これは、私の父親向けに家を造っている最中の写真です。これからは大径材がどんどん出てくる中で、その大径材をいかに使ったらいいかというようなことから、実際に使ってみようということで、今年の3月に完成する予定で建築を進めています。

これは、かねてからの念願であった、原っぱの中央に、伝統工法による多目的トイレをつくっているところの写真で、これには、全部ふもとっぱらの材を使い、ヒノキ材ですと、柱は8寸、周りの木は5寸ということにしており、今年の4月に完成の予定です。こういったことをやりな

がら、これから出てくる大径木の利用について、どんな利用法があるのかということ自分たちの中で考えている最中です。これは遠くから見た実際のトイレの建物で、右が男子トイレで、左が女子トイレ、真ん中が吹き抜けになっていて、そこから富士山が見えるという構図になり、その真ん中で上を見上げれば、伝統工法の木組みなどが見えるといった構造になっています。



先ほどシカ対策のお話しがありましたように、どこでもシカが増えすぎて非常に困った問題になっています。



拡がる林業被害

私どもではシカ対策についての研修を実施したり、研修を受けたり、また、捕獲した鹿肉の販売ルートをつくったりしており、また3月に完成予定の補助事業によるシカ肉をはじめとするジビエの加工施設をつくっている最中です。



さらにもう一つの森の産物の利用として、薪というものがあります。薪は現在、年間で 30000 束を消費しています。毎年夏になると富士山の低いところが煙で曇ってしまうぐらい薪を使っています。これは、子どもを負った地元のお父さんが薪をつくっている画面ですが、このお父さんもたくさんの薪をつくっていて、薪だけで毎月 15~20 万円の収入を得ているほどで、いま薪の需要が非常に高まっています。今後については薪需要から、地域熱利用を目指したいということで、これはデンマークに視察に行った場面ですが、木質エネルギーをもうちょっと効率よく使いたいということです。



薪のエネルギーをお湯に変えて、お湯のエネルギーを地域熱として利用していくというようなことも考えていて、こういったことも今後の新たに進めていきたいテーマです。



なぜ私たちがこういったキャンプ場を運営しているのかということですが、日本社会の中で、森と人の距離が非常に遠ざかってしまったということを感じていて、ヨーロッパに行くと人と森の距離がもっともっと近い、是非ともこのキャンプ場を通じて人と森の距離を縮めることができればいいと思っているからです。



これは、毛無山から見たふもとっばらの全景です。毛無山もフルに使いながら、従業員はわずか12名でしかいませんが、その従業員とともに、明るく楽しい林業が展開されるよう取り組んでいきたいと思えます。